

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部 研究主題

学びの質を高めるための、指導と評価活動の工夫

第5学年国語科学習指導案

単元名 私が考える「固有種が教えてくれること」

学習材名「固有種が教えてくれること」(光村図書出版 5年)

日時：令和4年12月15日(金)5校時
児童：品川区立日野学園第5学年1組30人
担任：品川区立日野学園 主任教諭 高柳 裕子

1 単元の目標

- 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。
(知識及び技能)
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことや知識・経験に基づいて、自分の考えをまとめることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。(C(1)カ)	① 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや知識・経験に基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	① 粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、自分の考えをまとめようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

児童は高学年になり、これまでの学習の中で「事例」や「理由や根拠」、「論の展開」に着目して、説明文の内容を捉えることができている。また、要旨をまとめる学習では、筆者の主張を捉え、自分の言葉で分かりやすく文章に書き表せるようになってきている。

一方で、文章中で資料が多く使われている文章に関しては、意識的に資料と文章との関わりを捉えたり、資料の効果について考えたりする経験は少ない。文章の基本的な読み取りはもちろん、文章の内容と資料がどのように関わっているのか、その効果とは何かについて考えさせたい。友達同士で考えや意見を交流し合い、資料と文章との対応や、資料が読み手の理解にどのような影響を与えるかを具体的に捉えさせていきたいと考える。

(2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、『固有種』を題材として、環境保全の重要性を述べた文章である。文章構成は、全11段落であり、2段落と11段落には、『固有種の住む日本の環境をできるだけ残していきたい』という筆者の主張が述べられており、双括型の文章構成となっている。

学習材の特徴の一つは、他の教材に比べて地図やグラフ、写真や表などの資料が多く使われていることである。

各資料は、筆者の主張を支えるために重要であるが、地図やグラフ等、それぞれの資料は種類によって特徴があり、補足されている情報や、文章の結び付き方も異なる。そうした各資料の使い方や効果について、文章を起点としながら、着実に捉えさせていくことが重要であると考ええる。

(3) 単元について（単元観）

本単元のねらいである、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる」を達成するために、以下のような流れで単元を構想した。

一次では、題名から単元を通した課題である「固有種が教えてくれること」とは何かについて、題名をきっかけとしながら課題意識をもたせていく。また、学習計画を立てる際には既習の読みの方法を確認し、教材の特性を確認しながら学習計画を立てさせる。

二次では、説明文の構成や、事例、資料と本文との結び付き、筆者の主張と要旨について学習していく。

三次では、一次で設定した学習課題について、自分の考えを形成するとともに、自分が単元の中で使った読みの方法について振り返る時間を確保する。

4 研究主題に迫るために

(1) 本単元で深めていこうとしている学びの質について

①既習の読みの方法を生かして課題を解決していくこと

高学年にもなると、低、中学年と説明文の学びを積み重ね、様々な読みの方法を学習してきている。これまで、自分たちが学んできた説明文の学びを意識、選択、統合しながら学習に向わせたい。初めて出合う文章に対して、どのような方法が必要なのか、どのような言葉に着目すれば、課題を解決することができたのか、学びを自覚的に捉えられるような単元設定をする必要があると考える。

②自らの学びを計画すること

自立した学習者を目指すためには、自らが課題を設定し読み進めていく必要があると考える。特に説明文の学習においては、書かれている文章の話題や、筆者の主張に関わる内容の側面と、構成や事例、表現の工夫など、書かれ方における側面があると思われる。新しく出合った文章に対して、既習の学習材と比較しながら、文章の特徴を捉えて、自ら読み進めていくための計画を設定する力を身に付けさせていきたい。

(2) 学びの質の向上を図る単元の工夫

①単元の目標と単元を通して身に付けさせたい力を設定した意図

本単元においては、文章と資料との結び付きを捉えることを重点に置いている。文章と資料の結び付きを捉えるとは、資料が文章の内容を補ったり、読者に伝える情報量を増やしたりする

ことである。また、そうした情報が、筆者の主張に密接につながり、より読者に伝わりやすくなることを想定している。

また、資料へ読者の視点を誘導するために、「資料○を見てください」などの表現の工夫がなされている。こうした工夫によって、自然に資料に注目できるといった書き手側の意図にも気付かせたい。

高学年児童の実態として、資料が使われていることの効果を問うた場合、筆者の主張が分かりやすくなるといった反応が予想されるが、主張や事例の内容に関わって資料が具体的にどのようなことを明確にしているのかについては自覚的ではない。筆者がどのような意図でそのような資料を用いたのか、用いた結果、読み手にとってどのような点分かりやすくなったのかを具体的に理解し、説明できるような力を育てていきたい。

②主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善につながる工夫

教材の特性に応じた課題設定の工夫

児童が主体的に学習を進めていくために、学習計画を立てる際、課題設定の観点を明確に捉えさせる必要がある。

本単元では、既習の説明文の学習で行ってきた学習を想起しつつ、「固有種が教えてくれること」の特徴を確認する時間を確保する。内容と書かれ方の両面から特徴を確認することで、今まで学習した説明文との違いを捉えさせ、本単元で扱う教材の特性を意識化させる。

また、既習の読みする方法を振り返ることで、学習計画を立てる視点をもたせる。「事例」や、「構成」などの視点をもたせることで、児童が必要な学習を意識して学習の計画を立てられると考える。

資料を意識化させるための手立て

児童が資料と文章の結び付きや、資料の効果について意識的に読むためには、その結び付きを判断する必然性をもたせることが重要である。二次では、資料だけを空欄にした全文シートを用意し、その空欄に適した資料を選ぶような学習方法をとることにした。資料を空欄にしておくことで、そこに存在していることが当たり前だった資料が意識化され、思考のずれを生み、どの資料を入れることが適切なのかを文章から判断することになる。ただ資料を空欄に当てはまるだけでなく、なぜそこに当該の資料が当てはまるのかという理由を考えさせることで、文章と資料の内容の結び付きを必然的に考えることになる。

また、資料の効果については、結び付いている文章の内容の根拠として用いられていることや、文章で書かれていない内容を補填していること、文章だけでは説明が難しく視覚的に内容を補助していることや、複数の資料を関連付けることで新しい事実を推測することなど効果は多岐にわたっている。それぞれの資料がどのような働きをしているかを具体的に捉えさせるために、追加発問等を行いながら論の展開と関連付けて説明させるようにする。

読みと結び付けた語彙の確認

「固有種が教えてくれること」は、論の展開に関わる難語句が多いという特徴がある。文章に対して自分の考えをまとめていく際には、その難語句を使いながらまとめていく必要がある。考えをまとめていく際に必要となる重要語句を精選し、発問を通して意図的に捉えさせることとした。

二次の資料の効果について考えていく時間には、そうした重要語句が児童の発言から出てきた際に、問い返しして意味を確認することとした。「伐採ってどんな意味でしょう。」などの発問によって語彙の意味を児童の発言の中から取り上げて説明させる。読み取りの中で出てきた語彙を意図的に取り上げながら全体に共有していくことで、自然に言葉に立ち止まらせ、語彙のイメージを豊かにしていくことができると考える。

(3) 評価活動の工夫

①「児童にどういった力が身に付いたか」という学習の成果をとらえる評価の工夫

単元を通じた課題設定と振り返り

単元の冒頭に、言語活動として「固有種が教えてくれることとは何か」という課題を設定する。一時の時点で初発の感想と同じように課題についての考えを書かせる。また、単元の終末には、同様の課題について、再度書かせる。単元の冒頭と、終末に同じ課題について書かせること

で、二次で行った読みがどのように生かされているのかを学習の成果として評価する。

また、「固有種が教えてくれることとは何か」という課題は、筆者の主張を捉えることとは少し異なり、固有種が「日本列島の成り立ちの生き証人」、「多様な自然環境が守られているあかし」であることが本文中には述べられている。評価に当たっては、先に述べた点が捉えられていればB評価とする。固有種が「日本列島の成り立ちの生き証人」、「多様な自然環境が守られているあかし」であることだけでなく、自分はそこからどのようなことを感じたかについて既存の知識と結び付けて考えをまとめているものをA評価とする。

②教師が指導の改善を図るための評価の工夫

振り返りの観点の明確化

各時間の中で、振り返りの観点を明確にして児童に提示する。本単元では、「筆者の説明の仕方について考えたこと」を観点として提示する。二次では、資料の効果を中心に考えていくことから、資料を用意した筆者の説明の意図を表現させ、児童の理解を見取っていく。学びの手引きには、学習計画表と共に記入欄を設けて書かせる。各時間の理解を確認しながら、児童一人一人の思考の流れを把握し、支援が必要な場合には、コメントを入れたり、個別に支援したりする等B評価となるように支援していく。

③児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるための評価の工夫

「読みの技」に関する振り返り

第2時に既習である、「事例」や「構成」など説明文の読み方を「読みの技」として確認する。確認したことから学習計画を立てていくとともに、説明文を読んでいくための視点を二次でも意識させ、読む際に活用させる。また新しく習得した読みの技についても追加させる。

また、単元の終末では、活用された「読みの技」について、「最も使えた技は何か」という観点で振り返りを行う。単元中で、「読みの技」がどのように使えたのかを意識させることで、今後の学習でもその観点を生かして学習を進められるようにする。

5 単元計画

過程(次)	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
一	1	1 扉絵を見て、どちらが「固有種」だと思うか話し合う。 2 題名について考える。「固有種が教えてくれること」とは何か。 3 全文を読む。 4 初発の感想をまとめる。 ・初めて知ったこと ・分かりやすかったこと	○「アマミノクロウサギ」と「ニホンノウサギ」の写真を提示する。 ○理由も含めて発言させる。 ○題名だけ情報を与え、どのような内容が書かれているかを予想させる。 ○資料付きの全文シートを用意する。 ○「文章の内容」と「説明の仕方」の両方の視点から、気付いたことを書く。	
		「固有種が教えてくれること」とは何だろうか？		
			手引きの活用 文章の内容に関わること、書かれ方に関わることについてそれぞれ感想をもち、学習計画につなげる。	

<p>二</p>	<p>2</p>	<p>1 初発の感想を共有する。</p> <p>2 説明文の読み方の観点を振り返る。</p> <p>3 学習課題・学習計画を立てる。</p> <p>4 おおまかな文章構成を捉える。</p>	<p>○前時の感想を基に、既習の説明文との違いを捉えさせる。</p> <p>○「説明の仕方」で出てきた感想を基に、手引きを活用して説明文の学習の既習事項を確認する。</p> <p>手引きの活用 これまでの学習経験から、既習の読みの方法を想起させる。</p> <p>○既習事項から必要な学習を考え、計画を立てる。</p> <p>○構成・事例について確認する。</p>	
	<p>3</p>	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 全文を読み、シートの空白部分に適切な資料を当てはめる。(資料1、2)</p> <p>3 資料1について文章の対応している部分に線を引く。</p> <p>4 資料2について文章の対応している部分に線を引く。</p> <p>5 資料1、2がその部分に当てはまる理由を考える。</p> <p>6 グループで交流する。</p> <p>7 交流したことをもとに、理由と資料の効果について全体で検討する。</p> <p>8 学習を振り返る。</p>	<p>○学習計画を確認し、資料が重要だということを確認する。</p> <p>○資料を当てはめた理由を発表させ、文章との対応が大切であることに気付かせる。</p> <p>○対応箇所を全体で確認しながら、内容を覆む。</p> <p>○個人で線を引き、全体で確認をする。</p> <p>○文章との対応だけでなく、資料の効果について考えられるようにする。</p> <p>○友達の見解に対して、相違点とその理由の2つの視点をもって聞くようにさせる。</p> <p>○論の進め方と結び付けて資料の効果を考えられるようにする。</p>	<p>◆【思考・判断・表現①】 資料と文章との対応を読み、資料の効果について考えることができているかの確認 ★ノート、全文シート、手引き</p> <p>◆【主体的に学習に取り組む態度①】粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、学習の見通しをもって、自分の考えをまとめているかの確認 ★ノート、手引き、発言</p>

4 本 時	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>2 シートの空白部分に適切な資料を当てはめる。(資料3～7)</p> <p>3 それぞれの資料について、文章が対応している部分に線を引き、その場所に当てはまる理由を考える。</p> <p>4 グループで交流する。</p> <p>5 交流したことをもとに、理由と資料の効果について全体で検討する。</p> <p>6 学習を振り返る。</p>	<p>○学習計画を確認し、資料が重要だということを確認する。</p> <p>○文章との対応が大切であることを確認する。</p> <p>○文章との対応だけでなく、資料の効果について考えることを確認する。</p> <p>○「この資料があることで何が分かりやすくなっているのか。」「それがあつて何で何を説明したいのか。」を視点として効果を考えられるようにする。</p> <p>○友達の意見に対して、相違点とその理由の2つの視点をもって聞くようにさせる。</p> <p>○論の進め方と結び付けて資料の効果を考えられるようにする。</p> <p>手引きの活用 資料に着目して読む方法について、読みの観点をまとめる。</p>	
5	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>2 筆者の主張を確認する。</p> <p>3 要旨をまとめる。</p> <p>4 交流する。</p> <p>5 交流をもとに、再度要旨を見直す。</p>	<p>○要旨をまとめる際のポイントを確認する。</p> <p>○筆者の主張を説明するためにどのような事例や資料が使われているかを確認する。</p> <p>○書いたものを交流し、必要な言葉や、書き方のよさに触れる。</p> <p>○再度自分の書いたものを見直し、必要があれば付け足しさせる。</p>	◆【知識・技能①】文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解しているかの確認
三	6	<p>1 「固有種が教えてくれること」とは何か、自分の考えをまとめる。</p> <p>○一次で書いたものを確認し、二次で学んだことを生かしながらまとめていくようにさせる。</p> <p>○1時に書いたものと6時で書いたものを比べ、振り返</p>	◆【思考・判断・表現②】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや知識・経験に基づいて、自分の考えをまとめているかの確認

	<p>2 交流する。</p> <p>3 読みの技について、観点に沿ってまとめ、前時までの学習を振り返る。</p>	<p>りに繋げるようにする。</p> <p>○今まで書き溜めた筆者の説明に対する感想を基に、自分が意識的に使えた読みの技とその理由についてまとめる。</p> <p>手引きの活用 「固有種が教えてくれること」について自分の考えをまとめ、学習で使った「読みの技」について振り返り、自分の変容を捉える。</p>	<p>★ノート、手引き</p>
--	--	---	-----------------

6 本時の学習（4/6）

(1) 本時のねらい

資料と文章の対応を読み、資料を用いる効果について考えることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。</p>	<p>○学習計画を確かめて、本時の学習に目を向けられるようにする。《柱①》</p> <p>○前時の学習で資料と文章の結び付きから資料の効果考えたことを想起させる。</p> <p>○資料1、2の効果について確認する。</p>	
<p>資料の効果を考えよう。</p>		
<p>2 シートの空白部分に資料を当てはめる。(資料3～7)</p> <p>3 それぞれの資料について、文章が対応している部分に線を引き、その場所に当てはまる理由を考える。</p>	<p>○全体で確認するとともに、文章との対応が大切であることを確認する。</p> <p>○文章との対応だけでなく、資料の効果について考えることを確認する。《柱③》</p> <p>○「この資料があることで何が分かりやすくなっているのか」、「それがあることで何を説明したいのか。」を視点として効果を考えられるようにする。</p> <p>○自分の考えが早くまとまった児童には、対応していない文章は何を表しているのか考えさせる。</p>	<p>◆【思考・判断・表現①】 資料と文章との対応を読み、資料の効果について考えることができるかの確認</p> <p>★ノート・発言</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価に対する指導</p> <p>○概ね満足できる児童への手立て 文章と資料の対応だけでなく、理由と結び付けて資料の効果を考えさせる。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て 資料が文章中でどのように説明されているかを捉え、その資料でなければならぬ理由を考えさせる。</p> </div>

<p>4 3人組で交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの資料の効果についての考えを交流させる。 ○友達の見解に対して、相違点とその理由の2つの視点をもって聞くようにさせる。 ○友達の見解でいいなと思ったものは付け足してもよいことを伝える。 	
<p>5 交流したことをもとに、理由と資料の効果について全体で検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の際に、それぞれの児童の考えを把握しておき、全体検討で多様な意見に触れさせることができるようにする。 ○文章との対応では、表現にも着目して検討ができるようにさせる。 ○論の進め方と結び付けて資料の効果を考えられるようにする。 ○難語句については、問い返しをしながら、全体で言葉の意味を確認する。《柱②》 	
<p>6 筆者の論の進め方について感想をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○論の進め方や筆者の説明の仕方に対して思ったことをまとめさせる。《柱④》 <p style="margin-left: 20px;">手引きの活用</p> <p style="margin-left: 20px;">資料に着目して読む方法について、読みの観点をまとめる。《柱③》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読みの観点をまとめることで、それらの工夫で筆者は何を伝えようとしているのか次時の活動につなげられるようにする。 	

(3) 板書計画

<p>資料 6 7</p>	<p>資料 5</p>	<p>資料 3 4</p>	<p>資料の効果を考えよう。</p>
<p>グラフ</p>	<p>写真</p>	<p>地図</p>	<p>今泉 忠明</p>
<p>★保護されるようになると再び増加</p> <p>○グラフで、天然林の減少とほかく数の変化が分かりやすい。</p> <p>●天然林の減少↓幼木の芽を食べる↓くじよ</p> <p>●固有種の保護は、その生息環境の保護とのバランスが重要</p>	<p>★固有種が生き続けるためには、このゆたかな環境が保全される必要があります。では、現状はどうでしょうか。</p> <p>○写真で絶滅した動物をイメージすることができる。</p> <p>●人間の活動によって固有種が減ってきていることを身近に感じる。</p>	<p>★固有種が生き続けていくためには、このゆたかな環境が保全される必要があります。では、現状はどうでしょうか。</p> <p>○地図の色のちがいで、気候がいくつにも分かれていることを知ることができる。</p> <p>●さまざまな動物たちがくらするゆたかで多様な環境</p> <p>●それぞれ自分に合った場所で生き抜くことができた。</p>	